

産業建設常任委員会 行政視察報告書

白山市議会

議長 中 野 進 様

産業建設常任委員会

委員長 上田 良治

令和7年7月29日から31日に行政視察を行ったので、その概要を報告します。

1. 視察区分 産業建設常任委員会 行政視察
2. 視察者氏名 (委員長) 上田 良治 (副委員長) 横山 由裕
寺越 和洋 石地 宜一 澤田 昌幸 田代 敬子
池元 勝
3. 随行者 (観光文化スポーツ部長) 山田 昌宏 (書記) 森 真央
4. 視察期間 令和7年7月29日(火)～令和7年7月31日(木)
5. 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
一般財団法人 奈良県ビジター ズビューロー	7月29日(火) 13:30～	ガストロノミーツーリズムについて
南紀熊野ジオパ ークセンター	7月30日(水) 10:30～	南紀熊野ジオパークについて
三重県明和町	7月31日(木) 10:00～	国指定史跡斎宮跡の整備、活用、維持管理について

6. 調査概要

【ガストロノミーツーリズムについて】

① 事業概要	ガストロノミーツーリズムとは、その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズム（観光のみならず、学習や研究などをテーマとした旅行全般のこと）である。 奈良の食と観光のリブランディングを推進し、美食文化発祥の地を世界に発信するため、食文化のルーツを巡る体験プログラム、ツアーの開発・造成、ファムトリップ（※）による販路拡大を目指す。 （※）ファムトリップ…観光地の誘致促進のため、ターゲットとする国の旅行事業者やブロガー、メディアなどに現地を視察してもらうツアー
② 取組の経緯	観光客数はコロナ禍以降回復してきており、外国人観光客の日本の人気観光地ランキングで常に上位に位置するが、日帰り客も多い。 また、日本酒について海外マーケットは急成長しているが、踏み出せていない地元酒蔵も多い。 そこで、令和5年度に「地域一体型ガストロノミー推進事業」の体制を構築。 奈良酒を基軸としたホテルでのガストロノミーイベント、バスツアーを開催。 動画を活用した酒蔵ツアー・ファムトリップを開催。
③ 課題	日中に限って言えばオーバーツーリズム。 市内での宿泊率が低い。 日帰り客の平均滞在時間が4.5時間であり、観光消費単価は全国最下位レベル。 外に向けての発信力や価値化の発想不足により、滞在や体験プログラム等による観光消費額増につなげられていない。
④ 所感	本市も食育を通じ、食文化体験やマルシェ等イベントを多く行っているが、観光との連携に弱みを感じている。 現代は、観光と食が一体となった地域活性化が求められており、地域が一体となった観光型ツーリズムや動画コンテンツなどを使った魅力ある発信を進めるべきと考える。

	また、本市の観光消費単価を調査し、滞在や価値を見極め、更なる、ツーリズムの活用に繋げていく必要を感じた。
--	--

【南紀熊野ジオパークについて】

① 事業概要	南紀熊野ジオパークは本州最南端となる紀伊半島の南部地域にあり、「プレートが出会って生まれた3つの大地～大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う～」をテーマとし、2014年に日本ジオパークに認定された。 南紀熊野ジオパークセンターは2020年7月27日に開館。プロジェクトマッピング映像やジオ体験装置等によるジオパークを分かりやすく学び、楽しむ事ができる観光学習施設。 また、英語・中国語にも対応し、世界に南紀熊野の魅力を発信している。
② 取組の経緯	2013年2月：南紀熊野ジオパーク推進協議会設立 2014年8月：日本ジオパーク認定 2019年7月：南紀熊野ジオパークセンター開設 2020年7月：開館 ユネスコ世界ジオパーク取得を目指す
③ 課題	施設のランニングコスト(塩害対応等) 地域で活躍する人材の育成(ガイド的存在) KPI(評価指標)の効果が見えづらい アクセスの導線、多人数対応の体制が不十分・大人でも楽しめる施設であるコンセプトが必要
④ 所感	本市には、ジオパークをPRする施設も無く、如何に知ってもらおうかが大きな課題と認識。 拠点整備を進めるに際し、在り方を明確にし、整備を進める事が重要であると考え。 ハード・ソフト的整備に分け、それぞれに項目を抽出し、効果的且つ発信力のある施設整備を構築していく必要性を感じた。

【国指定史跡斎宮跡の整備、活用、維持管理について】

① 事業概要	斎宮跡は、飛鳥時代から約660年にわたって、天皇に代わり斎王として伊勢神宮に仕えた未婚の皇族女性が過ごしていた場所である。昭和54年の国指定史跡を受け、史跡斎宮跡の本質的価値や副次的価値を高めていくため、歴史体験館や地域
--------	---

	交流センター、斎宮跡内に平安時代の建物再現等を行い、価値の重要性を図っていく。
② 取組の経緯	1978 年：斎宮跡の保存にかかる業務分担覚書 （県と町のそれぞれの役割分担覚書） 1980 年：史跡斎宮保存管理計画策定 1996 年：史跡斎宮整備基本構想策定 2025 年：史跡斎宮保存活用計画策定
③ 課題	全体整備プランの未確定（史跡面積が広いため） 史跡のため、駐車場・施設設置の制限 常用的に活用ができる戦略が必要
④ 所感	史跡公園整備にあたり、県と町が覚書を交わし、お互いに役割分担を定めた事業を実施していること、広大な史跡内用地を毎年町が買い上げ公有化していることに驚きを感じた。 史跡公園整備に向けて県や国への要望や整備後の賑わい創出の難しさも感じた。 今後の横江荘における史跡公園整備に向け、参考になった。